

豊庄だより



第 564 号 2019年 5月 20日

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

「桜を放つ女性」。リニューアルオープンした福岡市美術館で現在開催中(5月26日まで)のインカ・ショニバレの作品です。ショニバレはナイジェリア人の両親のもとロンドンに生まれ、3歳から17歳までナイジェリアで過ごした後ロンドンに戻り芸術を学び、今やイギリスを代表する世界的な現代美術アーティストです。彼の作品展が日本で開かれるのは今回は初めて。「桜を放つ女性」は、福岡展のために制作されたもので、作品展の一番最後のコーナーにありました。しかも、ここだけは写真を撮ることが許されていて、私はベストショットをどう撮ろうかと考え、かなりの枚数を時間をかけて撮影しました(右の写真がそれですが、どうでしょう)。

「アフリカプリント」と呼ばれる特徴的なドレスを着た女性。銃を持ち、そこから放たれたのは桜。一体何を意味するのか？作品が展示してある部屋の壁に作品の解説がありました。それによると、「この作品でライフルから発せられて



られているのは、ソメイヨシノだけでなく、ヤマザクラやシダレザクラなど様々な品種の桜。元来、桜は交雑の激しい種で自然交配が進んでいて、多様な種がある」と書かれていました。これではよくわからない説明ですが、おそらくこの作品に見られる桜の多様さこそ人間社会に欠如しているものだと訴えているのでしょうか。ではなぜライフルなのか？日本だったら「花咲か爺」？想像を膨らませながらいろいろと考えました。武器を使ったのは、アフリカで今も続く内乱や紛争を表現しているのかもしれませんが、また、女性の頭は地球儀になっています。よく見ると、地図の上に何やら文字がたくさん書かれています。カメラのレンズを望遠にして、南アメリカ大陸に書かれた「LEOLINDA DALTRO」という文字をなんとか撮りました。ネットで調べてみました。女性運動家の名前でした。他にもいくつも名前が刻まれていて、いずれも女性の権利拡大の尽力した世界の女性ということでした。西日本新聞(2019年4月18日朝刊)の「春秋」には、このように書かれていました。「銃が暴力の象徴だとすれば、咲き誇る花が表すのは命の輝きや平和か。非暴力で問題を解決し、安全で安心な暮らしを。紛争の耐えない旧植民地で、最もつらい立場を強いられる女性や子どもの願いだ。平和の花は食料や清潔な水、薬、本や教科書などの実を結ぼう」と。必見です！

